

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	有田町立大山小学校
------------	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 各項目の数値目標は達成できたが、学力向上や不登校支援等にはまだ課題が見られる。アンケート回答や学力調査等から見られる課題を具体的に分析・検討し、全教職員で共通理解・共通実践を進めていきたい。 本校教育目標を柱に、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成をめざし、児童一人一人を大切に教育を進め、実態に応じた学力の向上、道徳教育の推進、健康・体力づくり等にさらに力を入れていきたい。 地域に開かれた学校として、コミュニティ・スクールの利点を生かし、適切に情報を発信し、地域に学ぶ教育の推進に努めたい。
----------------------	--

2 学校教育目標	<p>「おおいに学び やさしく まっすぐ伸びる」大山っ子の育成 ～「知・徳・体のバランスのとれた児童」の育成～</p>
-----------------	---

3 本年度の重点目標	<p>1 学力の向上…①校内研究：小中連携による、自ら学び続ける児童生徒の育成(2年次)～対話活動を通して、思考を深める算数科学習指導の工夫～②基礎学力を向上させる家庭学習等の工夫と読書の推進③タブレット端末の効果的な活用④生涯にわたって自ら学ぶ意欲を高めるキャリア教育の推進 2 心の教育の充実…①人権・同和教育の推進…自尊感情を向上②「特別の教科道徳」と特別活動を絡めながら行う教育活動の充実③自主的自立的な児童活動の推進による主体的に活動する力の育成④児童の心に寄り添った生活指導や教育相談の充実(いじめの未然防止と不登校傾向児童への対応) 3 健康安全教育の充実…①体力の形成と運動能力の向上を図る運動環境の充実②「危機に強い学校」の構築 4 開かれた学校づくり…①地域の教育力を生かした教育活動の充実②学校評価の活用によるPDCAサイクルの充実 5 特別支援教育の充実…①児童一人ひとりの特性に応じた教育活動の充実と保護者や関係機関との連携②誰もが分かりやすい支援の工夫③特別支援教育への理解と啓発活動の推進</p>
-------------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
----------------------	---------------

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
●学力の向上	○対話活動を通して、思考を深める授業の創造	○対話活動を通して自分の考えが深まったと答える児童が85%以上	・授業の中で対話活動や自分の考えをアウトプットする場面を設定する。 ・対話活動を通して思考を深める授業づくりの研修を行う。	A	・CRTの結果の分析を行い、児童の課題について、授業改善に生かした。 ・どの授業においても対話活動を設定し児童の思考の深まる授業作りに努めてきたところ、友達の考えを聞いて「同じだ」「違うな」など自分が思ったことを伝えている児童が90%以上になった。 ・さらなる向上を図るために授業改善に取り組む。	A	・CRT学力テストの結果においては、全国平均を下回る項目も見受けられますが、課題を的確に把握した上で、対話的な学習を取り入れるなど改善に向けた取組が進められています。 今後、これらの取組が学力向上の成果として着実に表れてくることを期待します。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自分と他人との違いを認め、「自分や友だちのよさを見つけられること」ができる児童80%以上	・道徳の時間の充実に努め、「考え、議論する道徳」の実践を継続する。 ・毎週、気になる子の情報交換を行うことで、児童や学年・学級の実態把握に努める。 ・「Q-U」を分析し、学級の実態を捉え、個に応じた指導を充実させる。	B	・多くの職員が道徳の授業を計画的に実施し、充実に努めているが、「考え、議論する道徳」については今後も研修等を行いながら学んでいく必要がある。 ・道徳や集会等を経験した結果、自分と他人との違いを認め、「自分や友だちのよさを見つけられること」ができる」という設問に「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた児童が90%以上であった。	A	・2月20日実施の「6年生を送る会」を参観し、学年間のつながりや相互理解が自然な形で育まれていることが確認できました。日常の教育活動を通して、豊かな人間関係づくりが着実に積み重ねられていると評価します。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○日頃から児童一人一人の実態を把握し、管理職・担任・保護者・SC・SSWとの連携を図る。	・毎月「心のアンケート」と実施し、いじめ等の早期発見・予防に努める。 ・職員連絡会等で、学級や学年、気になる児童の実態把握、共通理解に努める。 ・「心のポスト」を設置し、児童が自身の不安や思い等を伝えやすい環境をつく	A	・心のアンケートとその聞き取りを毎月行い、早期に児童の実態把握に努めることができた。 ・SCとのカウンセリングに、気になる児童や保護者をつなげ、継続的なカウンセリングを実施することができ、児童の心の安定につながることができた。	A	・教職員による日常的な観察と組織的な対応体制が確立されており、児童の心理的安定につながる取組が継続的に実践されています。具体的な成果が見られる点で 高く評価します。

	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「あなたのまわりの人はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童82%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童82%以上	・お互いの良い所を伝え合う活動を通して、自己肯定感を高める。 ・キャリアパスポートを活用したり、学級で行事や学期ごとに短期目標を設定したりすることで、自己評価を行い、目標に向かう心情を育てる。	A	「まわりの人が自分のよいところを認めてくれている」と回答した児童が94.3%であった。また、「自分の夢や目標を決めて、それに向けて頑張りたい」と回答した児童が97.8%であった。学校行事や学級活動で、目標を立てたり、互いに認め合う機会を多く設けたことが、児童の自己肯定感の高まりにつながった。	A	・学校として目標設定や取組状況の分析が丁寧に行われており、児童生徒の達成率が高いことから、指導の方向性と実践が適切に機能していると認められます。
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が、1週間で420分以上の児童が70%以上 ②本校生徒指導重点目標「挨拶」「たてわり掃除と集団登校」「学校のきまりを遵守」ができた児童80%以上 ③食に関するアンケートをとり、「健康に良い食事をしている」と回答する児童が90%以上	・毎日、昼休みに外遊びを促す放送を行う。 ・定期的に縦割り遊びを行い、異学年で運動を含んだ遊びで体を動かす。 ・「なわとびタイム」や「マラソントime」を設定し、カードを与えることで運動習慣や目的意識を高める。 ・生活めあての内容を、毎月の重点指導内容に位置づけたり、良好目標については随時承認・賞賛したりする。 ・給食時間に食育に関する放送を行うとともに、「おにぎり弁当の日」を設定し、家族で「食」を考える機会を設ける。	A	・「持久走タイム」を継続的に続けることで、持久走大会でのタイムを30秒縮められるくらい、体力をつけさせることができた。 ・月に1回の縦割り遊びを通して、異学年で運動を含んだ遊びを行い、多様な遊びを知ったり、触れ合ったりさせることができた。 ・「1週間の半分以上は、外で遊んだり運動したりして体を動かしている。」に対して肯定的な回答が88%で、外遊びを促すことができた。 ・「早寝・早起き・朝ご飯の生活ができています」に対して肯定的な回答が88%であり、健康的な生活習慣につながった。 ・本校生徒指導重点目標「挨拶」「たてわり掃除と集団登校」「学校のきまりを遵守」では、目標の80%を超える90%以上の児童が達成できた。 ・「縦割り掃除」の指導の徹底により、6年生を中心として自分達で進んで取り組む姿勢が身についた。	A	・昼休みの外遊びを促す校内放送や、異学年交流を取り入れた運動活動など、児童の主体性や運動意欲を高める工夫が見られます。健康の保持増進に向けた継続的な取組として評価します。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・稼業日平日は18時までに、定時退勤日(毎週金曜日)は17時までに、全員帰宅の実施を目指す。 ・稼業月時間外勤務40時間以内を実施する。 ・職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上の促進	A	・平日は18時までにほぼ全員が退勤し、定時退勤日である金曜日17時過ぎには全員退勤している。 ・4月からの職員1人当たりの年次取得休暇日数は11日となり14日には届かなかったため、改善策を講じる必要がある。	A	・生成AIの活用による業務の効率化が図られており、教職員の負担軽減と教育の質の向上の両立に向けた取組が進められています。また、教職員の授業参観を通じた教職員相互の学び合いも、組織的な授業改善につながる有効な実践であると評価します。
●特別支援教育の充実	個に応じた支援体制の充実と教員の専門性、認識の向上	「校内体制の中で、配慮の必要な児童について個に応じた支援を行うことができた」と回答する職員80パーセント以上を目指す	・特別支援教育についての研修会の実施 ・児童の支援についての情報共有 ・校内支援会議の開催と校内体制での支援	A	・講師招聘をした研修や児童の支援についての情報共有を行うことで、「特別支援に関する理解が深まった。」と回答する教員が94%になった。 ・支援の必要な児童について校内支援会議を随時開き、校内体制での支援を行ったところ、効果的な支援につながった。	A	・授業参観を通して、児童一人ひとりの特性や状況に応じた丁寧な支援が行われていることを確認しました。個々の良さを伸ばし、将来を見据えた指導が着実に実践されている点を評価します。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○「開かれた学校」づくりの推進	○保護者・地域との連携と人的・物的資源の活用	○「学校は、よく情報を伝え保護者の相談や要望に誠実に対応している」と実感する保護者85% ○「地域の学びがとて深まった」と回答する児童80%以上	・学校・学級・保健などの通信を定期的に発行する。 ・コミュニティ・スクールの特性を生かし、学校運営評議委員と連携しながら地域学習や体験活動を充実させる。	A	・「学校は、よく情報を伝え、保護者の相談や要望に誠実に対応している」と回答した保護者は98%であった。今後も学校HPやアプリ等を活用し、積極的に保護者や地域と連携をとっていきたい。 ・「地域の学びがとて深まった」と回答した児童95%であった。歴史探訪や木工教室、棚田米づくり等、地域の特色を生かした学習も今後も継続し、地域を誇れる児童の育成を目指したい。	A	・大山小学校のコミュニティスクールは、「子どもは地域で育てる」という理念が地域全体に浸透しており、学校と地域が協働する体制が確立されています。地域住民が主体的かつ継続的に学校活動に参画している点は、校区の長年にわたる良好な地域風土に支えられた大きな強みであると評価します。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・保護者アンケートの結果で、「確かな学力」の項目において肯定的な回答が85%だったものの、CRT学力検査の結果が昨年度並みか昨年度より低くなった学年もあった。今後は、授業づくりや学力向上に関する研修を行うと共に、教員相互に学び合う機会を増やし、指導力向上に努めたい。</p> <p>・「開かれた学校づくり」においては、今年度も大山小校区に根付いているコミュニティスクールの皆様のご協力のもと、様々な取組を行うことができた。9割の児童が「地域の学びが深まった」と感じているところから今後も地域に学ぶ教育のさらなる推進に努めたい。</p> <p>・職員の働き方改革については、生成AIを適切に活用し、さらに業務の効率化を図りたい。今後は、業務改善により生み出された余白の時間の有効活用に取り組むたい。</p>
----------------	---